

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	4	うるおい・雄武	整理番号	54
基本施策	15	環境の保全	評価責任者	産業振興課長 横田 和幸
単位施策	1	自然環境の保護・再生		

1 施策の概要

基本方針	貴重な生態系の維持に向け、希少生物や在来種の調査・保護、外来種の移入防止・駆除対策、魚道の確保など、必要な保全・再生に配慮します。	
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）
	鳥獣保護区や原生林、湿原など自然性の高い地域の保全や魚道、北の魚つきの森の整備など野生動植物の現状を的確に把握しながら生物多様性の保全に配慮し、自然環境の保護・再生に努めている。	鳥獣保護区や原生林・湿原など自然性の高い地域の保全にあたっては、野生動植物の現状を的確に把握するとともに、生物多様性の保全に配慮し、自然環境の保護・再生に努めている。
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）
	国内の林業が低迷する中、経営意欲の少ない森林所有者が増加し、森林の荒廃が進み、野生動植物の生息域の減少を招き、人間と野生動物の軋轢が増えたため、人と野生動植物との共生や生物多様性に及ぼす影響を少なくする、持続的な森林経営が求められている。	農地開発や地球温暖化等の影響により、野生動物の生息域が減少し、人間と野生動物の軋轢が増加しており、人と野生動植物との共生や生物多様性の保全に配慮した環境保全が求められている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	環境保全関係各種規制区域面積					
	定義等	自然環境保全地域・鳥獣保護区					
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値		732ha	732ha	732ha	732ha	732ha
指標2	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標3	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標4	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標5	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標6	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						
指標7	指標名						
	定義等						
	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	実績値						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	鳥獣残渣等処理事業	林務係	2,489	A	継続/現状維持	A
②	有害鳥獣捕獲事業	林務係	4,802	A	継続/現状維持	A
③	猟友会雄武部会運営補助金	林務係	880	A	継続/現状維持	A
④	【再掲】北の魚つきの森環境整備事業	林務係	19,735	A	継続/現状維持	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	本町の豊かな自然を後世に引き継ぐためには、自然環境の保護・再生が不可欠であり、必要な施策である。
② 有効性	A	本施策を構成する事務事業により有害鳥獣の捕獲や幌内川流域の環境整備を実施し、自然環境の保護・再生が図られていることから、有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	本施策については、構成する事務事業により効率的に実施されており、施策目的に沿った推進が図られている。
④ 公平性	A	自然環境や森林が持つ公益的機能の恩恵を誰もが享受しているため、公平性が保たれているものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	自然環境の保護・再生に係る施策は、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
本施策により、自然環境の保護・再生が図られており、今後においても必要不可欠な施策である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
本町の豊かな自然を次世代に引き継ぐためには、今後においても継続して実施する必要がある。	同 左	

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止